

琉球人遺骨「文化遺産」

台湾大と県・今帰仁教委合意

再風葬訴える子孫反発

台湾大学から今年3月に
県側に返還された63体分の
琉球人の遺骨について、同
大学と県教育委員会、今帰
仁村教育委員会が、人骨は
埋葬せず、人類の重要な文
化的遺産として永続保存す
ることに同意する「協議書」
を交わしていたことが2日
分かった。

63体の中には今帰仁村の
百按司墓から持ち出された
遺骨が含まれているとみら
れる。墓に葬られていたの
は第一尚氏の貴族だとし
て、再風葬するよう訴えて
いる子孫の玉城毅さん(69)
は「祭祀継承者の権利を無
視するものだ」として強く
反発している。

玉城さんの県教委への情
報公開請求で明らかになっ
た。協議書では、台湾側が
必要に応じて研究対象にで
きると記されていて、玉城
さんは「私たち祖先の遺骨

であり、台湾側にその権利
はない」と訴えている。

県教育庁文化財課の濱口
寿夫課長は本紙の取材に、
百按司墓に誰が葬られてい
たかは文献上も諸説あり、
祭祀継承者であるか客観的
には明らかでないと説明。

「研究者が保存してきた学
術的な資料としての価値に
ついても大切にしたい」と
している。